市民の皆さんの想いを形に
平成24年度当初予算
一般会計予算　1,002億3,100万円

前葉泰幸市長による初の本格予算となる本年度当初予算は、一般会計で1,002億3,100万円となりました。

昨年度の当初予算は骨格予算であったため、実質的な予算規模である昨年6月補正後の肉付け予算額と比較して、一般会計は0.6%減の1,002億3,100万円、特別会計などを含めた総額では4.2%増の2,207億9,400万円となりました。

本年度当初予算は、次の「3つのポイント」に重点を置いた予算となっています。

※文中や図表中の金額表記は100万円未満を四捨五入などしています。
▲はマイナスを表しています。
昨年度の当初予算は骨格予算のため、昨年6月補正後の予算額と比較しています。

予算編成の3つのポイント

ポイント1
津市としての行政課題に的確に対応する予算

一般会計予算の総額は、人件費の削減、公債費、子ども手当制度の改正に伴う扶助費の減などで0.6%減となりましたが、事業の緊急度、優先度を踏まえ、必要な事業に予算を重点配分する「メリハリを付けた予算」とし、行政課題に的確に対応していくための予算となっています。

ポイント2
公約に掲げた政策課題の実現に向けた予算

市民の皆さんの想いを形にするため、「市民の命を守る」「市民の心をつなぐ」「市民のくらしを創る」の3つの政策に沿った、早急に取り組むべき施策を進めるための予算としました。

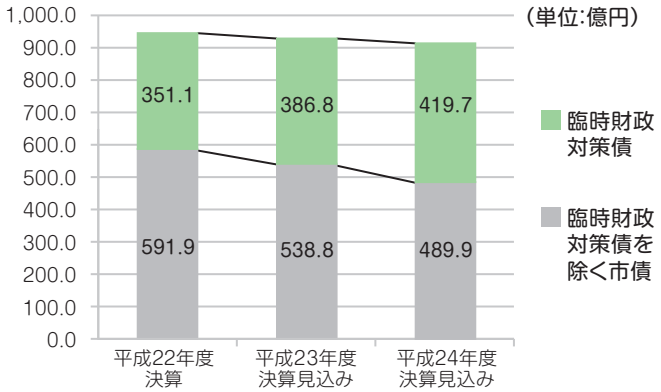
ポイント3
将来にわたる健全な財政運営を踏まえた予算

市債（臨時財政対策債を除く）の昨年度末の借入残高は538億8,000万円で、前年度と比較すると53億1,000万円減少しており、着実に残高を減らしています。

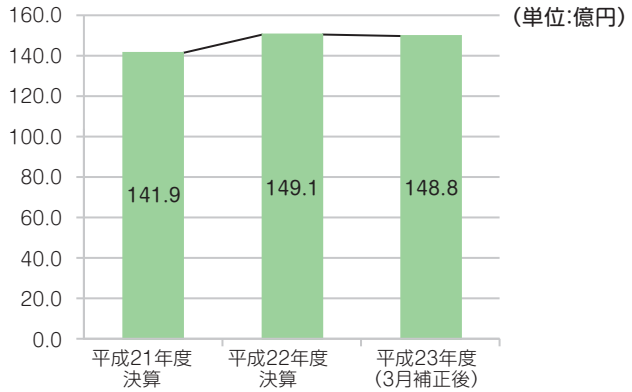
本年度の新規の市債(臨時財政対策債を除く)も、36億円中23億2,000万円は、元利償還金の7割が地方交付税に算入される有利な市債を活用しています。

また、市の貯金に相当する財政調整基金の昨年度末（3月補正後）残高は、148億8,000万円で、今後も健全な財政運営を行えるよう、借入残高と財政調整基金残高の水準を踏まえた予算となっています。

市の借入残高の推移



市の財政調整基金（貯金）の推移



●臨時財政対策債とは

平成13年度に創設された地方債で、地方の財源不足を補てんするために、本来、国から地方交付税として交付されるべき額の一部を振り替えて発行する特例地方債のことです。各地方公共団体が借り入れ、後年度の償還金は全額地方交付税に算入されます。